

平成 26 年を迎えて

義務教育特別支援教育指導課長 安間 英潮

平成 26 年を迎え、まもなく一月がたとうとしています。各学校におかれましては、年度末に向けての総仕上げの時期に入り、活気に満ちた学校生活が送られていることと存じます。残り 2 か月をどのように過ごすかによって、子供たちの進級・進学に向けた意欲や期待も大きく変わってきます。全ての子供たちが不安なく新年度を迎えられるよう、先生方の一層の御尽力をお願い申し上げます。

さて、平成 25 年 4 月に文部科学省が実施した全国学力・学習状況調査の結果から、東京の子供たちは全国的に見て成績が上位のグループに属していることが分かりました。各学校の真摯な努力に対し、都民に代わって改めて御礼申し上げます。しかしその一方で、他の成績上位の県と比較すると、東京は下位層の子供（正答数が少ない子供）の割合が多いことや、テストで間違えた問題について復習せず、できなかったことをできないままにしている子供が多いことも明らかになりました。

東京都教育委員会では、「みんな満点プロジェクト」として、教科書の例題にあるような、各教科の基本となる問題について、義務教育修了までに東京都の全ての子供が「できる」「わかる」ようにするための取組を推進しています。小学校 4 年生までの基礎的・基本的な内容を繰り返し学習できる都独自の教材「東京ベーシック・ドリル」を作成する他、子供たちの習熟の程度に応じた習熟度別指導の推進や、子供たちが分からなくなったところまで立ち戻って丁寧に教える指導の徹底を図るなど、全ての子供が「やればできる」という自信と意欲をもてるよう、各学校の教育活動を支援してまいります。

本年も、都教育委員会の諸事業に、御理解と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

目次

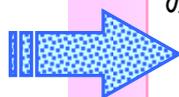
- 授業がよく分かるのはどうして？
平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」報告書より 2
- 「理数教育の窓」ー 理数好きの子供たちを育てるためにー 4
- 「道徳教育の窓」ー 東京の子供たちの豊かな心を育むー 5
- 平成 25 年度「わく (Work) わく (Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」
発表会が開催されました 6
- 「特別支援教育の窓」ー 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指してー 7

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存じですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

学び応援ページを御活用ください！



東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

授業がよく分かるのはどうして？

平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」報告書より

前号で、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」報告書を活用するポイントについて御紹介しました。本号では、児童・生徒質問紙調査（学習に関する意識調査）の結果の一部を御紹介します。

授業が分かる要因はなんですか？

各教科等の授業の内容が「どのくらい分かりますか」という質問について、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた児童・生徒に、その要因を聞いた質問への回答です。複数回答（選択式）で、回答率 10%以上の要因を載せています。算数・数学の結果を例に、授業が分かる要因をみていきます。

算数（小学校第5学年対象）と数学（中学校第2学年対象）の結果

算 数	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	66.6%
	コースに分かれた少人数の学習があるから	61.6%
	算数の授業での先生の教え方がていねいだから	44.6%
	出された宿題をきちんとやっているから	44.5%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	43.1%
	ものを使ったり、実際に体験したりする授業が多いから	41.6%
	塾や家庭で教えてもらっているから	40.1%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	37.0%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	25.1%
	分からないときには学校の先生に聞くから	21.9%
分からないときには自分で調べるから	15.1%	

報告書 P. 187 より

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるためには、習熟の程度に応じて教材や指導方法を工夫し、分からないところを分かるまで丁寧に指導することが大切です。また、学習した内容を定着させるには、反復学習が効果的であることも分かります。

数 学	数学の先生の教え方がていねいだから	48.5%
	数学の問題にはいろいろな解き方があるから	43.2%
	塾や家庭で教えてもらっているから	40.1%
	理解の程度などによるコース別の授業があるから	33.4%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	32.4%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	19.3%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.1%
	自分で予習や復習をしているから	17.0%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	13.8%
	数学を教えてくれる先生が好きだから	12.2%
分からないときには自分で調べるから	10.1%	

報告書 P. 200 より

習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することも大切です。各教科等における言語活動を充実させ、自分の考えをまとめて発表したり、互いに意見を出し合ったりする中で、ものの見方や考え方を広げたり深めたりすることが必要です。

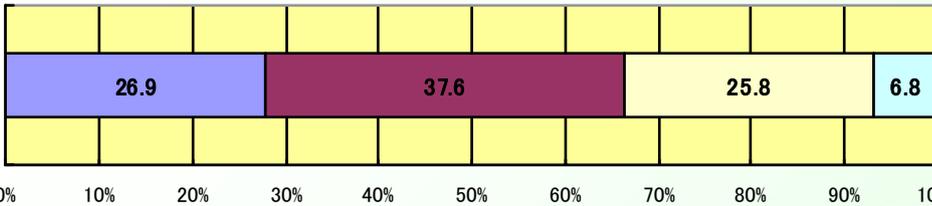
◆基礎・基本の確実な習得→できた・わかった
◆思考力・判断力・表現力等の育成→なるほど・そうだったのか
「できた・わかった」「なるほど・そうだったのか」を積み重ねていくことで、子供たちの自信と意欲を引き出し、主体的な学習につなげていきましょう。

他の教科の結果についてもぜひ御覧ください。

考えをまとめさせたり、整理して説明させたりしていますか？

報告書では、学習に関する意識調査の結果と「学力向上を図るための調査」の各教科の平均正答率との関連を示しています。ここではその中から二つの項目を例に挙げて、教科の指導の中でどのような活動に取り組みさせることが重要かを考えてみます。

調べて分かったことや考えたことを、自分なりにまとめている。(小学校第5学年の結果)



- している
- たいていしている
- しないことが多い
- しない

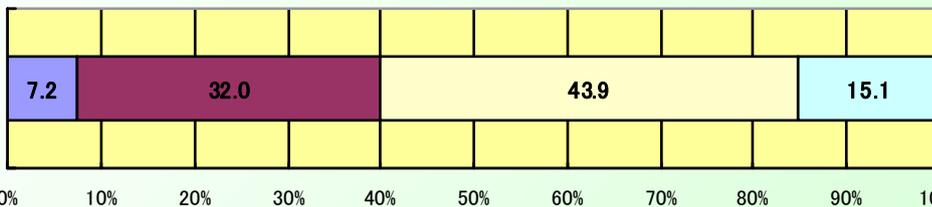
調べて分かったことや考えたことを、自分なりにまとめていることと平均正答率との関係	各教科の平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
している	75.0	67.8	68.9	65.3
たいていしている	71.2	63.2	63.6	61.6
しないことが多い	67.9	59.1	58.6	57.7
しない	60.5	50.4	48.9	50.4

「調べて分かったことや考えたことを、自分なりにまとめている」児童ほど、各教科の平均正答率が高くなっています。中学校第2学年への調査でも同様の結果が出ています。



(例)「している」と答えた児童の理科の平均正答率は65.3%となっています。
報告書 P.190 より

自分の考えを、整理して分かりやすく説明している。(中学校第2学年の結果)



- している
- たいていしている
- しないことが多い
- しない

自分の考えを、整理して分かりやすく説明していることと平均正答率との関係	各教科の平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
している	77.2	61.2	58.7	54.1	66.5
たいていしている	73.1	56.1	53.0	49.5	62.4
しないことが多い	67.4	48.7	45.0	42.9	55.4
しない	61.0	42.5	38.2	37.4	48.5

「自分の考えを、整理して分かりやすく説明している」生徒ほど、各教科の平均正答率が高くなっています。小学校第5学年への調査でも、同様の結果が出ています。



報告書 P.203 より

情報を分析して論述したり、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させたりするような活動を、単元の学習の中に設定することが大切です。

学力調査の結果だけでなく、意識調査の結果からも授業改善のための手だてを考え、児童・生徒の実態に応じた工夫をしていくことが必要です。



報告書は、東京都教育委員会ホームページの、このパネルの中の「確かな学力」のコーナーで閲覧できます。

「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

動物園・水族園を活用して、実感を伴った動物の学習を！

東京都には、【恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園】の四つの都立動物園・水族園があります。

各動物園・水族園では、様々な手法で飼育・展示することで、多種多様な動物の暮らしをより野生本来のものに近づけ、来園者が野生動物の普段見られない生態・行動を間近に観察できる取組を進めています。

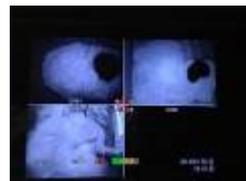


チョウの生態を体感できる
昆虫生態園

例えば、

- ・オランウータンのスカイウォーク（多摩）
- ・ニシローランドゴリラの群れによる飼育展示（上野）
- ・ニホンリスの行動を間近に観察できるリスの小径（井の頭）
- ・ツキノワグマの冬眠展示（上野）
- ・チョウの生態を一年中体感できる昆虫生態園（多摩）
- ・クロマグロが群れて回遊する大型水槽（葛西）

などがあります。



ツキノワグマの冬眠展示

展示を前から漠然と眺めるだけでは、動物の様々な特徴に気付くことはできません。その動物の何を見るのか、視点や疑問をもって観察し、それまで知らなかった「気付き」や「発見」を通して動物を理解することで、動物に対する見方がグンと深まります。こうした視点や疑問のヒントとなるよう、都立動物園・水族園では様々なプログラムや教材を用意しています。ここで、それらの活用例を紹介します。

＜ 教育活用ガイドブックの活用 ＞

各園では「教育活用ガイドブック」を作成、配布しています。このガイドブックには、「おすすめ見学プラン」や「教育プログラム」、「学習教材」、団体利用の申込み方法等が掲載されています。



教育活動ガイドブック
(恩賜上野動物園)



教育プログラム例：魚の解剖と解説
(葛西臨海水族園)

＜ ワークシートの活用 ＞

各園では、自分たちで動物を観察するためのワークシート（クイズシート、セルフガイドシート等）を用意しています。ワークシートを活用することによって、動物を見るポイントが分かるので、飽きずに楽しく動物を観察することができます。



観察シート例（多摩動物公園）

＜ イベントやプログラムの活用 ＞

～ 動物園・水族園の冬のキャンペーン「Visit ほんと Zoo 2014」 ～



ホンドテン



オシドリ

冬になると、毛や羽が生え変わる動物、活動が活発になる動物、冬眠に入る動物などがあります。動物の生態や活動は、季節によって違いがあります。そのことを実際に観察し確認することができる催しが、都立動物園・水族園の4園合同で行われています。この内容は、小学校第4学年の「季節と生き物」の教材研究等に役立ちます。【開催期間 2014年1月9日～3月9日】

- ・各園には専門の動物解説員がおり、事前申込みによる団体向けガイドを行っています。年齢や人数に合わせた効果的な学習プログラムを提供しています。
- ・事前予約が不要なキーパーズトークやふれあい活動などの自由参加イベント、様々なテーマで開催される企画展を見学コースに入れることにより、さらに学習効果を高めることができます。

詳細は、各園にお問い合わせ下さい。(ホームページ：東京ズーネット <http://www.tokyo-zoo.net/>)

「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

教育活動全体を通じて豊かな心を育む

● 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

学習指導要領解説道徳編には、「それぞれの教育活動で行われる道徳性育成の指導が、道徳の時間において補充、深化、統合されると同時に、道徳の時間で行った指導が学校の教育活動全体に波及し、生かされていくという関係がある」(p.8)と示されており、道徳教育が道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行われることがあらためて確認されています。そのような趣旨に基づき、東京都道徳教育教材集は、学校の教育活動全体で活用するものとして作成されました。実際に、東京都道徳教育教材集を道徳の時間以外に活用した小学校・中学校の実践を紹介します。

小・中学校の活用例

家庭学習や朝の会のスピーチで活用する

小学校3・4年生版「心 しなやかに」

『先人のことば』を集めてみよう」 p.30～p.31

○ 家庭学習での取組として

第一章「先人のことばに学ぶ」の中からことばを選び、朝の会を利用して児童に紹介しました。

そして、児童自身が好きなことばを選び、音読カードに記入し音読をするという家庭学習に取り組みせました。

最初は意味も分からないことばでしたが、何度も音読することで、徐々に意味が理解できるようになりました。また、保護者の方が音読を聞いてくださり、読み方を教えたり、一緒に意味を調べたりしてくれました。自分の好きなことばや調べたことばを p.30 と p.31 に自由に記入してよいことも伝えました。

○ 朝の会のスピーチで紹介

p.30 に記入した自分の好きなことばとその意味を、朝の会のスピーチで発表させました。

私は、「玉磨かざれば光無し」ということばが気に入っています。家で音読していたら、お父さんやお母さんが小学生の頃、よく言われたことばだと話してくれました。意味は、すぐれた才能や素質をもつ人物でも…



友達と紹介し合うことで、先人のことばに親しむことができ、意味も自然に理解することができるでしょう。

部活動のミーティングの場で活用する

中学校版「心 みつめて」

「志を立てて以って万事の源と為す」 p.4

「目標に向かう強い心を大切にしたい」 p.122～p.123

【本事例における道徳の内容】中学校1－(2)より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

○ ミーティングの場で、部活動に取り組む意欲を高めるきっかけとして

生徒に第一章の吉田松陰の言葉を紹介しました。「志を立てて以て万事の源と為す」とは、どのような意味なのかを部員に投げかけることによって、志、すなわち目標をもつことの大切さについて考えさせました。その際、「心みつめて」p.122～p.123「目標に向かう強い心を大切にしたい」を読ませ、今の自分の目標やその達成のために何をするかについて記入させることによって、部活動に対する具体的な目標を、部員一人ひとりが明確にすることができました。

先日のミーティングで、人がやる気になるためには、目標をしっかりとつことが大切だということがよく分かりました。しかし、その目標があまりにも高いと途中でどうせ無理だとあきらめてしまうことも考えられるので、小さな目標の達成を積み重ねていくことも大切だと思いました。まずは今まで以上に、毎日の練習に全力で取り組むようにしようと思います。



平成 25 年度「わく (Work) わく (Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」 発表会が開催されました

平成 26 年 1 月 19 日 (日) に、東京都庁都民ホールにおいて、東京都青少年・治安対策本部と東京都教育委員会との共催で、平成 25 年度「わく (Work) わく (Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」発表会が開催されました。

発表会では、「つながる・広げる・成長する職場体験」をキーワードに、小・中・高等学校による職場訪問や職場体験、キャリア教育の事例発表や、事業所関係者による受入の事例発表、講演等を通して、職場体験の意義や望ましい在り方について、200 名を超える参加者が共に考えました。

小学校・中学校・高等学校・受入事業所による事例発表

小平市立小平第八小学校・板橋区立板橋第三中学校・江戸川区立小松川第一中学校・都立深沢高等学校の 4 校が、事例発表を行いました。受入事業所からは、株式会社エスパシオ ホテルコンチネンタルの代表の方から発表をしていただきました。

「八小キャリア教育プログラム」を作成し、第 1 学年から第 6 学年まで系統的なキャリア教育を実践している小平第八小学校、生花店とコンビニエンスストアでの職場体験を紹介した板橋第三中学校、新聞社での職場体験の中でラジオ出演もした小松川第一中学校、インターンシップでの体験で学んだことを発表した深沢高等学校と、各学校とも大変充実した内容でした。また、ホテルコンチネンタルからは、職場体験を通して事業者側が学ぶことも多いとのお話をいただきました。



功労事業者等感謝状贈呈



区市町村教育委員会及び中学生の職場体験推進協議会員から、中学生の職場体験の受入等について特に功労が認められ推薦を受けた 49 の事業者等に対し、感謝状を贈呈しました。

5 日間程度の職場体験の受入を 5 年間以上継続して実施するとともに、その間多数の生徒の受入を行っている事業所や、特に優れた他の模範となる取組を実施している事業所を対象としています。

講演「職場体験について 地域協働学校の視点から」

発表会のまとめとして、新宿区四谷地区協議会副会長・四谷中学応援団長の田中健士氏から、「職場体験について 地域協働学校の視点から」という演題で、御講演をいただきました。

職場体験だけでなく、地域防災訓練やボランティア活動等を通して、学校と地域とがどのように関わっていけばよいのかを、地域の側からの視点でお話いただきました。学校も地域も互いに成果を得られるような関係＝「互恵関係」を築くためのヒントを、数多く教えていただきました。



「わく (Work) わく (Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」に関する取組や発表会については、



または、東京都青少年・治安対策本部のホームページで御覧いただけます。

東京都青少年・治安対策本部 <http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/>

「特別支援教育の窓」

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—

自閉症の児童への支援 ～話し合い活動を通じた「相互理解」の工夫～



発達障害の児童・生徒が在籍する学級の経営においては、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒の相互理解を進めることが大切です。話し合い活動は、障害のある児童・生徒が学級の友達との関わり方を学ぶ機会であり、障害のない児童・生徒が障害のある友達への配慮の仕方を学ぶ機会ともなります。教師は、話し合い活動が相互の理解を促す機会となるよう、どのような配慮や支援を行えばよいのでしょうか。

授業例(小学校) 総合的な学習の時間 「自分のつきたい仕事」

発達障害の児童・生徒には、話し合い活動の進め方やルールを分かりやすく、具体的に説明します。

障害のない児童・生徒には、話し合い活動における配慮点について説明します。

障害のある児童

支援① ワークシートを活用し、発表する内容を整理する。

やりたい仕事				
	を			
どこで				
	で			
どんな風に				
	やりたいです。			

支援② 話し合いの内容や順番を明示する。

★発表までの手順や発表の順番をカード等で示し、見通しをもたせます。

発表までのステップ

- 1 「司会者を決めよう」
- 2 「発表の順番を決めよう」
- 3 「発表しよう」

発表の順番

- 司会者 ()
発表者1 ()
発表者2 ()
発表者3 ()

支援③ 発表できたことを評価する(成功体験)

他の児童

◎項目ごとに順番に話し合いを進め、自分の考えをワークシートのどの欄に記入するのか、障害のある児童と一緒に確認するようにします。

◎ワークシートの記入に集中できるように、障害のある児童に話しかけないようにします。

◎友達の発表中は、発言をしない等のルールを決め、みんなで守るようにします。

◎発表の順番をみんなで確認します。

◎司会者は、常に、同じ手順で発表を進行するようにします。

司会者 せりふカード

- 1 「〇番の人 発表して下さい。」
- 2 「質問ある人いますか？」
- 3 「△△さん、質問をどうぞ」
- 4 「〇〇さん、質問に答えてください。」
- 5 「ありがとうございました。次の発表に移ります。」

◎しっかりと発表できた時には、お互いにほめ合うようにします。

◎ 様々な学習活動を通じて、障害のある子供と障害のない子供の相互理解が進むよう、学級経営の工夫をしましょう。

